

JR肥前鹿島駅周辺整備全体構想

2

第2章 まちなか整備構想の策定

1) まちなか整備目標と基本方針の設定 2-1

2) 整備対象地区の設定 2-3

3) 地区将来まちなか骨格図の検討 2-4

4) まちなか整備構想の検討 2-6

1) まちなか整備目標と基本方針の設定

「環境・交流循環拠点づくり」の考え方

課題への対応の3つの方向性でも示したように、「JR 肥前鹿島駅周辺地区」はこれまでの交通結節の場所から“交流循環”の拠点へ、また多良岳山系から市内の平野、さらには肥前鹿島干潟や有明海を結ぶ“環境循環”の拠点となっていくことが望まれます。

交流循環の拠点では、主役は市民や来訪者です。駅周辺地区での交流を目的とした、ゆっくり・のんびりと過ごしてもらおう空間づくりを目指します。駅周辺地区には市民や来訪者の交流を生み出す施設や広場機能を有し、スカイロードやさくら通りともハード面だけではなく活用によってつながることで(ex. スカイテラスチャレンジ)、人の循環を生み出していきます。北公園や旭ヶ岡公園などの広場、まちかどのポケットパーク、水の豊かさを象徴する水路なども中心部のそぞろ歩きを促す要素として活かしていきます。

環境循環の拠点では、駅周辺地区が多良岳山系から水田の平野と有明海の干潟に繋がる山と海の接点に位置していることが重要です。世界でも希有な干潟が山から運ばれた泥質の土と有明海の大きな干満差によってできていることを、山と海の環境が交わる場所にある駅周辺地区では同時に体感することができます。また、身近に水路などがある鹿島では、私たちの暮らしが大きな水循環の一部であることを教えてください。このように、駅周辺地区は鹿島の豊かな自然を多面的に感じることができる、環境循環の拠点としてふさわしい場所にあると考えます。

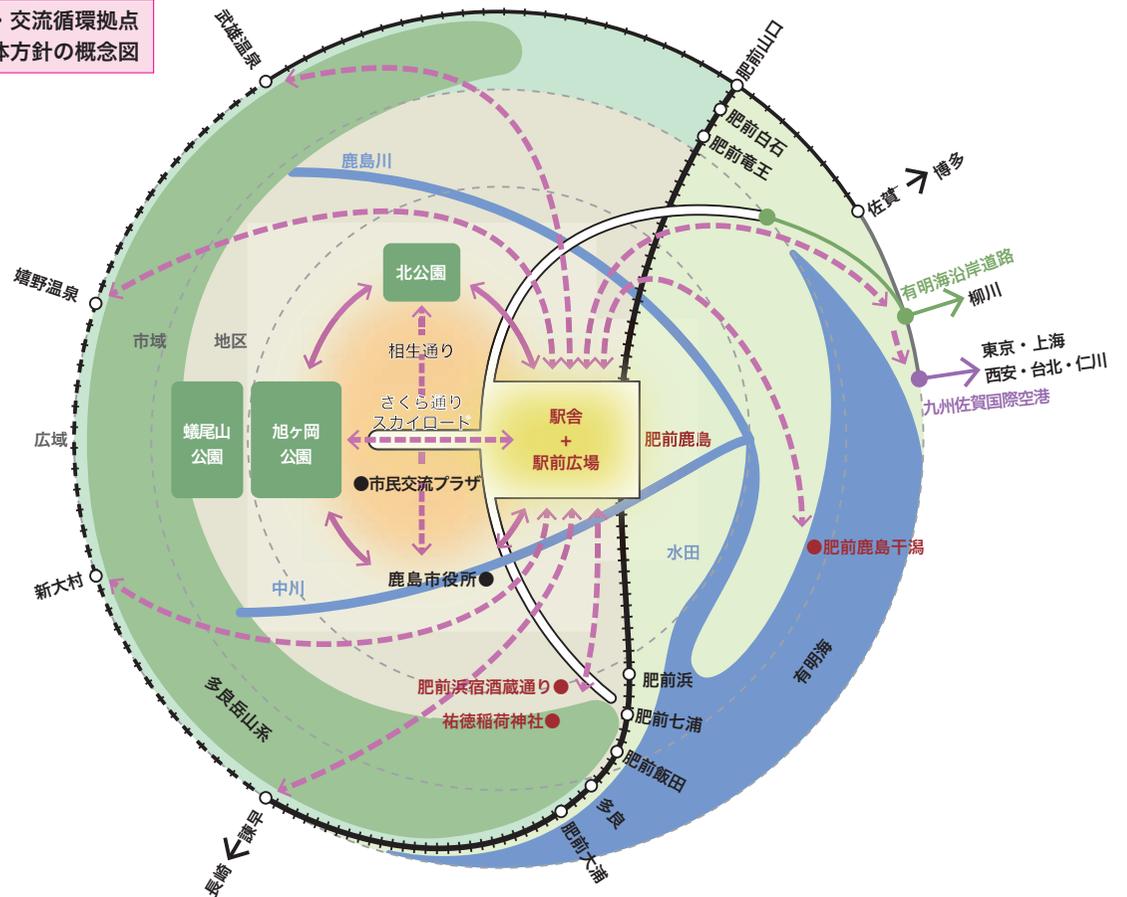
「JR 肥前鹿島駅周辺まちづくり」は、交流循環を促すことで人がつながり、環境循環を考えることで私たちの暮らしをもっと知っていくことを目指し、以下のようにテーマ(コンセプト)を設定します。

JR 肥前鹿島駅周辺まちづくりのテーマ(コンセプト)

「人と自然がつながる 私たちの“まちの駅”」

- ・地域を守り、磨き、新たに加えて積み上げていくまちづくりの姿勢が、鹿島に暮らし、鹿島を訪れる魅力の源となっています。
- ・駅は通勤通学の交通結節点であるとともに、暮らしの拠点であり、文化の拠点です。鹿島に暮らし、訪れる人が憩い集う交流の場となることが期待されています。
- ・また、スカイロードとの繋がりを強化充実させていくことで、中心市街地の活力再生にも波及させ、持続性の高い、鹿島ならではの積み上げ方(プロセスとアプローチ)によって「まちの駅」づくりを、市民の力で共に創りだしていきます。

環境・交流循環拠点 全体方針の概念図



1) まちなか整備目標と基本方針の設定

■JR 肥前鹿島駅周辺まちづくりの基本となる柱

JR 肥前鹿島駅周辺まちづくりのテーマ(コンセプト):

「人と自然がつながる 私たちの“まちの駅”」

- ・地域を守り、磨き、新たに加えて積み上げていくまちづくりの姿勢が、鹿島に暮らし、鹿島を訪れる魅力の源となっています。
- ・駅は通勤通学の交通結節点であるとともに、暮らしの拠点であり、文化の拠点です。鹿島に暮らす人、訪れる人が憩い集う交流の場となることが期待されています。
- ・また、スカイロードとの繋がりを強化充実させていくことで、中心市街地の活力再生にも波及させ、持続性の高い、鹿島ならではの積み上げ方(プロセスとアプローチ)によって「まちの駅」づくりを、市民の力で共に創りだしていきます。

整備目標 1・

鉄道を中心とした交通結節点を強化し“まちの交流循環拠点へ”

- ・単なる交通結節点としての駅から駅周辺および周辺都市を含めた連携・回遊の中心となることで、まちの交流が広く循環する拠点となることをめざしていきます。

整備目標 2・

豊かな暮らしや風景を感じられる“まちの玄関口としての肥前鹿島駅へ”

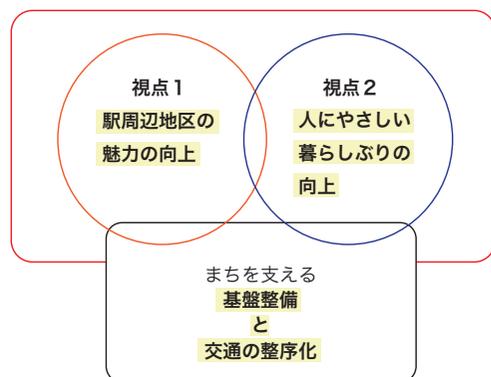
- ・肥前鹿島駅は、在住者や来訪者にとってのまちの玄関口として、周辺に点在する豊かな資源や活動等の情報を提供する場所として機能させていきます。

整備目標 3・

歴史と文化を活かし“賑わいあふれ、人にやさしい駅周辺まちづくりへ”

- ・肥前鹿島駅を含む中心市街地には、歴史と文化が重層するエリアでもあります。これらの資産を継承しつつ、まちなかに点在する“小さな拠点”を連携させて駅との一体的なまちづくりを市民・行政・事業者の共創によって推進していきます。

JR 肥前鹿島駅周辺のまちづくりの視点



■まちづくりの2つ視点から導くまちなか整備基本方針

整備目標 1~3 を踏まえた上で、まちづくりの2つの視点から地区整備を推進していくための「整備基本方針」を以下のように整理する。

① 周辺地区を取り巻く豊かな自然環境の保全・活用

- ★山並み風景や肥前鹿島干潟等の自然環境の活用、生態系の保全
- ★駅と中心市街地とを繋げる緑のネットワークづくり
- ★市民の生活の場となっているネットワーク拠点(公園・商店等)の活用・創出

② 中心市街地に重層的に点在する歴史・文化・活動等の継承

- ★城下町期から近世に至る重層的な資産の保全・活用
- ★旧肥前鹿島駅舎を始めとする歴史的文化的資産の掘り起こし
- ★市内観光へ導くインフォメーション機能や案内サイン等の充実

③ 人にやさしい駅まちづくりのための交通コントロール

- ★多重縦列駐車や通過交通の排除による駅利用者の安全性の確保
- ★駅前空間において交錯している公共交通と一般送迎車両の整序化
- ★周辺観光拠点等への移動の円滑化と相互連携の強化・充実
- ★歩行者にやさしく、安全安心な道づくりの推進

④ 地区生活の暮らしやすさ、住環境の向上、市民のための居場所づくり

- ★人々の憩いの場、集いの場としてのまちなか既存ストックの活用
- ★新規出店しやすい空き店舗等の活用と支援環境の整備
- ★待合の場として快適な駅舎空間の強化・充実
- ★市民が利用する医療機関や商業施設などに向かう公共交通の充実
- ★建物の耐震化等による災害時の安全性の向上
- ★浸水等の災害時における一時避難場所としての活用

⑤ 交流人口の拡大

- ★市民と来訪者、双方の交流の場となる心地良く使いやすい駅前空間の創出
- ★まちなかのネットワーク拠点(商店や病院等)の活用と相互連携による回遊性の創出
- ★鹿島市の特産品や活動等を総合的にPRする場所づくり

⑥ プロセスとアプローチを大切にしたい駅周辺まちづくり事業への取り組み方

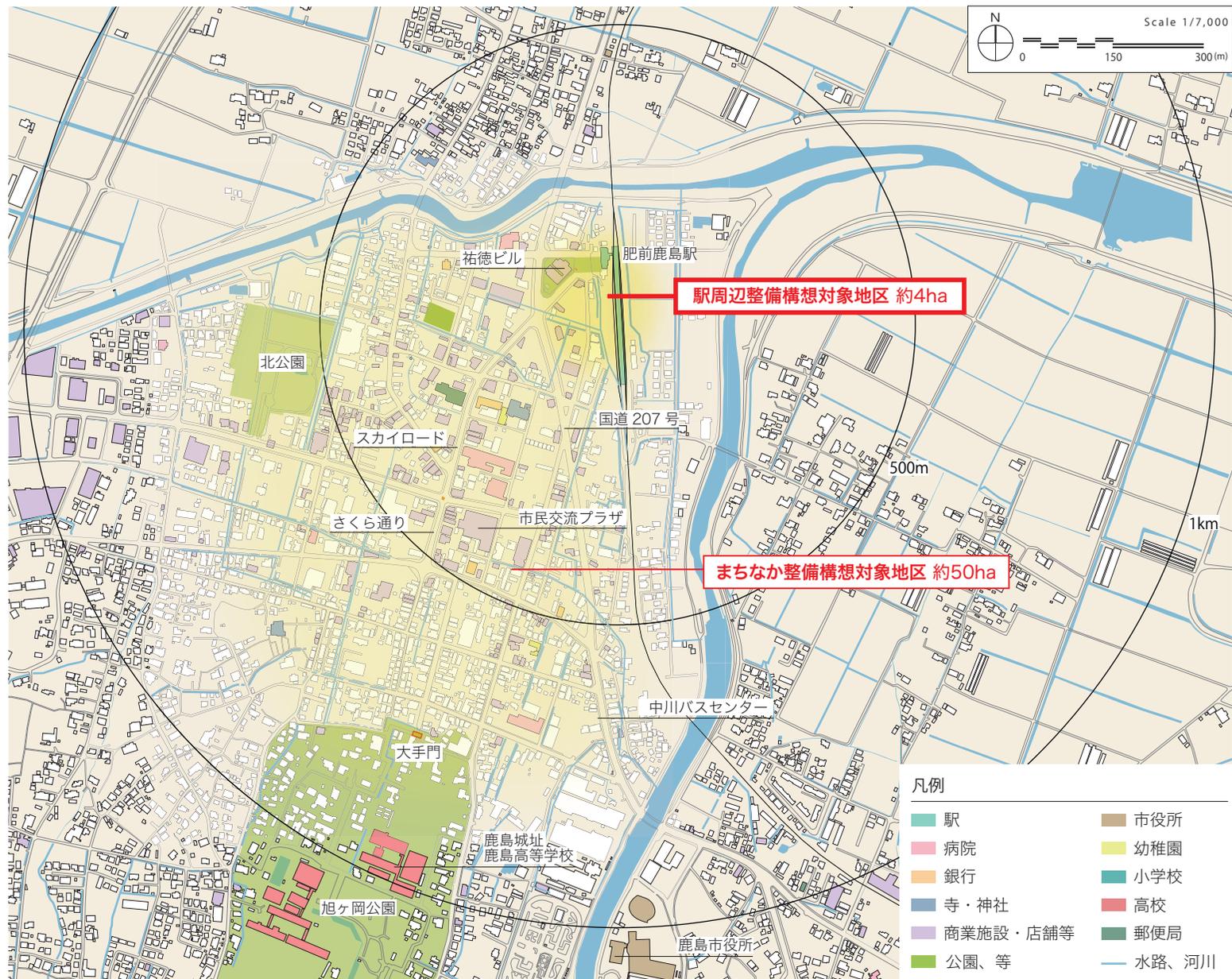
- ★多年度かつ複数事業に渡る事業の一体性と一貫性を確保するための推進体制の構築
- ★駅舎と駅周辺整備への市民の参加機会確保と事業進捗状況の積極的な情報開示

地区の魅力向上への取り組み

人にやさしい暮らしぶりの向上への取り組み

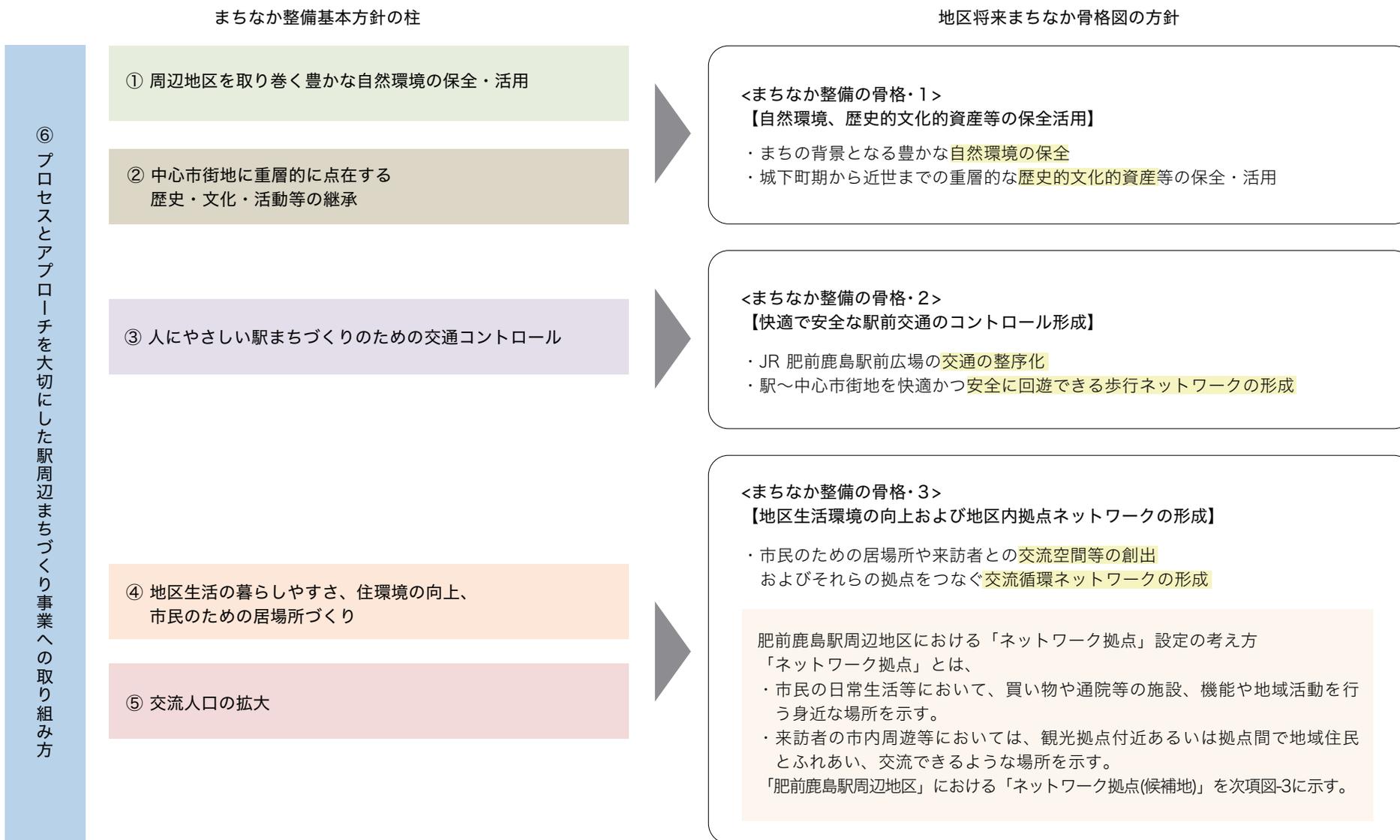
2) 整備対象地区の設定

まちなか整備基本方針等を踏まえた上で、JR肥前鹿島駅周辺まちづくりの整備対象地区を下図のように設定する。



3) 地区将来まちなか骨格図の検討

まちなか整備基本方針に基づいて、JR肥前鹿島駅周辺地区の将来像を描くための、まちなか骨格図を構成する要素等を以下の考え方で整理する。



以上より、地区将来まちなか骨格図を3つの視点(方針)から次頁以降に整理する。

3) 地区将来まちなか骨格図の検討

<まちなか整備の骨格・1>

【自然環境、歴史的文化的資産等の保全活用に向けたまちなか骨格図】

- ・まちの背景となっている山並み・(干拓地)肥前鹿島干潟
- ・整備対象地区内に点在する歴史的文化的資産等(旧鹿島城縄張り、町割り、(老舗)町家、旧長崎街道と道すじ、水路、祐徳軌道(旧駅)、碑(オンガミサマ等)、寺社、等)
- ・駅前→肥前鹿島干潟への散策ルート、等



図-1 <まちなか整備の骨格・1>

<まちなか整備の骨格・2>

【快適で安全な駅前交通のコントロール形成に向けたまちなか骨格図】

- ・肥前鹿島駅前空間
- ・駅～中心市街地内の主要歩行ネットワーク
- ・地区内主要道路ネットワーク
- ・コミバス、路線バスルート(バス停)等



図-2 <まちなか整備の骨格・2>

<まちなか整備の骨格・3>

【地区生活環境の向上および地区内拠点ネットワークの形成に向けたまちなか骨格図】

- ・市民の生活拠点(買い物、通院、ピオ、主要店舗等)
- ・ポケットパーク、北公園
- ・スカイロード
- ・バス停、中川BC、駅前BC、ポケットパーク等
- ・コミュニティバス、路線バスルート(バス停)等

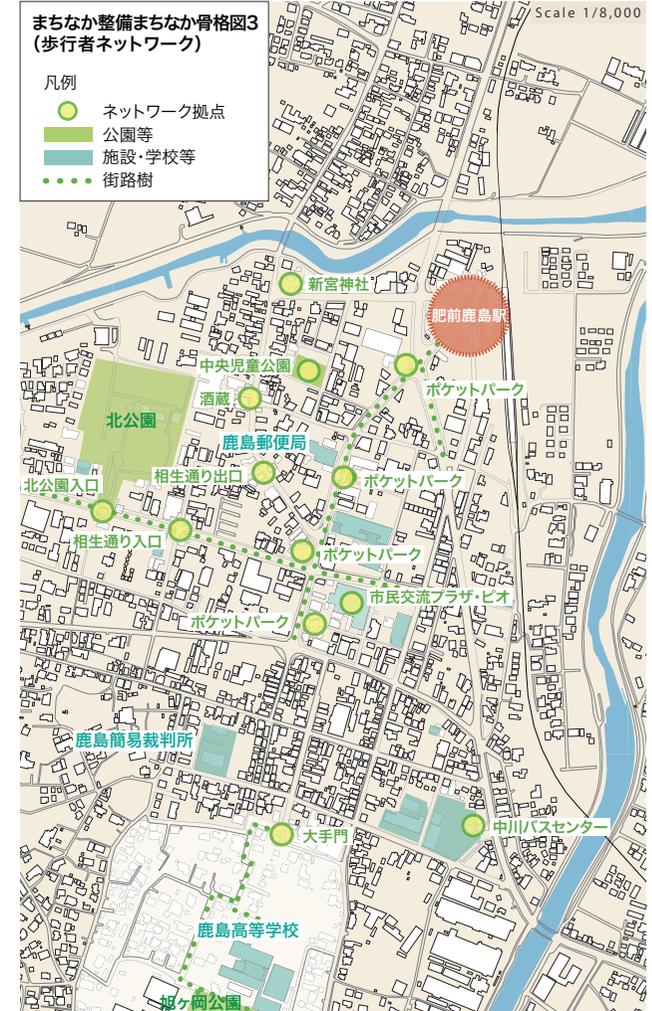


図-3 <まちなか整備の骨格・3>

4) まちなか整備構想の検討

まちなか整備にあたっての3つの骨格として整理したまちなか骨格図を重ね合わせ「まちなか整備構想図」とする。

前述のまちなか整備方針及びまちなか骨格図より、3つの骨格を重ね合わせた右図を見ると、鹿島の中心市街地（まちなかエリア）は肥前鹿島駅、北公園、旭ヶ岡公園の3拠点によって外周が囲まれていることが分かる。中でも肥前鹿島駅は通勤・通学者、来街者の玄関口となるため、より重要な位置付けとなっている。中心市街地と駅を結ぶという意味では、スカイロードが重要となり、駅前広場まで連携していく必要がある。

これら3つの拠点に囲まれたエリアの魅力をもっと高めていくためには、以下の点が重要となる。

- ・点：まちなかに点在している小さな拠点や歴史的・文化的資源の発掘及び再整備
- ・線：徒歩や自転車、バスを含めたネットワークの形成
- ・面：点と線がつながっていくことで、地区整備構想エリアとして一体的なエリアを形成

また、これらの実現にあたっては、ハード整備だけではなく、地域住民の活動やイベントなど、ソフト面での取り組みも必要となり、これまでに行われてきた祭事やスカイテラスチャレンジ等の活動とも一層の連携が重要となる。なお、駅東側については、将来的につながりを創出する方法を検討する。

